

滋賀県長浜町 吉田 道明



事例のポイント・要約

- 水田28haを耕作、内12haを無農薬・無化学肥料栽培を行っている
- 大規模経営の中で高品質で作業負担の軽減した栽培体系
- EMを活用した有機物の発酵処理を行っている

1. はじめに

私は次男ゆえ、小さい頃から、農業の手伝いはほとんどしませんでした。いつも汚い服で、苦勞している両親の姿を見てきた僕は、農家が嫌で嫌で絶対に農業などするつもりはありませんでした。きっかけは、船井幸雄さん、高木義之氏や比嘉教授の講演を聞き、農家の息子の宿命を感じていました。飲食業の店長をしていた29歳の時、EMについてや食や生ごみの処理などについて教えてくれる機会がありました。山形の有機栽培農家を視察して、有機栽培の米作りに具体的なビジョンを持つようになり、環境や体に優しい農業を大規模で経営して、有機肥料やEMなどを活用して米作りをする事を決心し飲食業から農業に転身した。



2. 経営の概況

水稻耕作面積は28haで、その内無農薬有機肥料栽培米を約12ha栽培している。

3. 栽培圃場の概要

1) 圃場の立地と周囲の地形

長浜市（ながはまし）は、滋賀県北東部に位置する市で、湖北地方の大部分を占める。琵琶湖周辺には、秋から冬にかけて、たくさんの水鳥たちが羽を休めにやってきます。遠浅の湖岸が続き、ヨシなどの水草が豊富で、魚や鳥たちにとっての生息環境がととのっているので、ガンやカモの仲間は越冬の地として、カイツブリ、サギたちにとっては子育ての場所として絶好のすみかとなっています。



4. 具体的な栽培技術

1) 耕起～作付けの準備

4月中旬に早めの1回目代掻きをします。もう一度田植え前に代掻きをします。食味向上と健

康な稲作りの効果を期待して、EM活性液を流し込みます。また最近では光合成細菌の生菌を使用しています。

2) 雑草対策

除草方法は代掻き、米糠ペレット散布、深水管理です。雑草が多少生えますが、除草機は一度も使用しません。



5. 吉田農園の特徴

1) 農業だけで収入を得るには、平均8割程度の収量で品質と作業負担が増えない栽培形態を選択しました。

品質向上に努め、食味値を測定してその評価を基準にして「長寿米」ブランドを確立し、お米をランク別にしました。

2) 「長寿米」という米は、「安全で美味しいお米を出来るだけ多くの方に安く提供する」という企業理念から、EM活性液や堆肥などを使用して栽培しています。

5. 今後の課題や取り組みたいこと

「誰でも出来る無農薬栽培」技術の先駆者として、力を注ぎたいと考えております。そして、広く無農薬有機肥料栽培米を普及拡大したいという願いを持っています。

もし、日本の米作りのあり方として、みんなが実践すれば、消費者の方には健康なお米を食べて頂き、みんなが健康になります。ご飯が美味しければ、お米中心の和食型の食生活になります。日本のお米の評価は世界一ですから、大量に生産できれば、輸出も出来るようになるでしょう。



参考資料

消費者の声とお米の反響

2000年と2009年に滋賀夕刊で吉田農園が記事に取り上げられ2007年には毎日新聞に記事に取り上げられ、2006年には全国米・食味分析鑑定コンクールの若手農業経営者部門で金賞を受賞しました。



全国EM技術交流会より抜粋引用